



展示室休室中も、岡本太郎美術館は活動します

令和8年度 出張展示 Part2.

## 「岡本太郎と沖縄 in Museum+205」

川崎市×那覇市 友好都市提携 30周年記念  
2026年9月18日(金)～2026年11月8日(日)

岡本太郎美術館は、令和8年3月末から改修工事のために展示室を休室していますが、この期間中も、多くの方に岡本太郎の世界に親しんでいただけるよう、館外での出張展示を開催します。

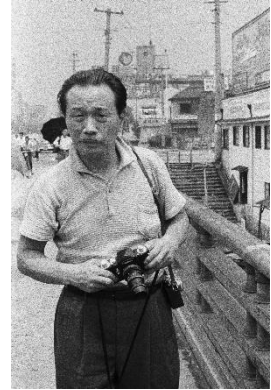


02.『久高のろ』1959年

第二弾の本展示は、那覇市と川崎市の友好都市提携30周年を祝って、岡本太郎が1959年に初めて訪れ、すっかり魅せられた沖縄へのまなざしをご紹介します。まだ沖縄がアメリカ占領下だった時代、岡本は沖縄の土地と風土、人々の暮らしの中に、失われた日本の原点と文化的根源を発見しました。この時の紀行文としてまとめられた『忘れられた日本—沖縄文化論』は、いまなお色褪せない名著です。

本展示は、この『沖縄文化論』からの岡本の言葉にあわせ、岡本が撮影した写真をご紹介します。岡本自身が、一つの「恋」のようなものだった、という

ほどに全身で没頭した沖縄。彼がそこで捉えた写真をぜひご覧ください。



01.岡本太郎ポートレート(大阪)  
1957年

### 《開催概要》

会 期:2026年9月18日(金)～11月8日(日)

開館時間:9:00～17:00

休 館 日:月曜日(9月21日、10月12日を除く)、9月24日(木)、10月14日(水)、11月4日(水)

観 覧 料:無料

会 場:Museum+205(川崎市役所本庁舎復元棟 2階)

※併せて本庁舎1階の情報発信スペースでも関連情報を紹介予定です(期間:10月1日(木)～28日(水))

### 【みどころ】

#### ○写真と言葉でたどる岡本太郎が捉えた「沖縄」の姿

1960年3月から12月まで、岡本は『中央公論』で「沖縄文化論」を連載しました。琉球王国時代からの文化や習俗、そして市井の人々の暮らしを、自身で撮影した写真を交えながら綴ったこの連載は、翌年に中央公論社より『忘れられた日本—沖縄文化論』として出版され、毎日出版文化賞を受賞しました。

本展では、この『忘れられた日本—沖縄文化論』に収録の文章と、取材時に岡本が撮影した写真より、岡本が見て、感じた「沖縄」を紹介します。

#### ○岡本太郎の言葉で紹介する沖縄の文化

岡本の『忘れられた日本—沖縄文化論』では、沖縄の文化が多数取り上げられています。また、岡本は那覇市でも取材をし、多くの写真を残しました。本展では川崎市と那覇市のさらなる親交と相互理解を願い、岡本の言葉を引用しながら沖縄の文化を紹介します。

# PRESS RELEASE



川崎市 岡本太郎美術館  
Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki

## 【関連イベント】

### ○「ワークショップ オリジナルの顔を描こう！」

川崎市役所本庁舎に岡本太郎の彫刻作品《月の顔》があるのを知っていますか。岡本の作品には、様々な“顔”が登場します。今回は本庁舎内で紙皿に顔を描くイベントを開催予定。お楽しみに！

日 時:10月25日(日)

対象年齢:どなたでも(未就学児、小学校低学年向け)

料 金:無料

申し込み:当日先着順(100名程度)

※開催場所等、最新の情報は当館ホームページにてお知らせいたします。



## ●広報用画像



03.《那覇の街頭にて》1959年



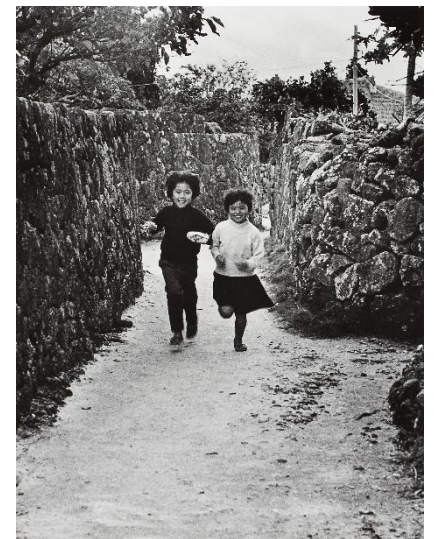
04.《読谷》1959年



05.《大御嶽》1959年



06.《イザイホー》1966年



07.《久高島》1966年

### 《お問い合わせ》

川崎市岡本太郎美術館

企画担当:佐藤、喜多

広報担当:山内(pr@taromuseum.jp)

〒214-0032

神奈川県川崎市多摩区枡形 7-1-5 生田緑地内

TEL:044-900-9898 / FAX:044-900-9966

<https://www.taromuseum.jp>

※01.以外の写真は全て岡本太郎撮影

★広報用画像をお貸ししています。

ご希望の媒体様は、当館広報宛にお問合せください。